

神戸女学院大学音楽学部

アウトリーチ

通信



第5号
2006年11月25日発行
年4回発行
神戸女学院大学音楽学部
アウトリーチ・センター
〒662-8505
西宮市岡田山4-1
電話・FAX: 0798-51-8584

メッセージ

神戸女学院大学音楽学部
アウトリーチ教育アドヴァイザー

五嶋 みどり



撮影: Anthony Parmelee

社会には、そこで生活する人の間に
基盤となる何らかのコミュニケーション
が必要ですが、技術革新やグローバ
ル化が進み、コミュニティ内でコモ
ングラウンドを見つけることが難し
くなってきているのが現状です。

コミュニケーションの必要性和有用
性が認識されている現代において、言
葉を使わずにコミュニケーションの
基盤となるコミュニケーションを提供
できる可能性のある音楽の潜在価値
は、益々高まってきています。

音楽にコミュニケーションの構築機
能があるとすれば、音楽をコミュニテ
ィに浸透させていくことが必要で
あり、それを実際に遂行する音楽家が
求められます。「アウトリーチ」は音
楽をコミュニケーションに浸透させる有
効な手段ですが、ノウハウも必要です
し、継続するためには活動の基盤も必
要です。音楽家の中には、演奏はでき
るけれどもアウトリーチ活動はでき
ないという人もいます。今後は、「音
楽演奏」だけでなく、コミュニケーション
の構築に貢献できるような人材を
育てていくことが重要な課題だと思
います。

私に関わるアウトリーチ活動では、
「本物の音楽(質の高い演奏)」を聴
かせること、そして「本物の音楽」に
触れさせることを信条としています
が、アウトリーチ活動が単に音楽家に
よる出張演奏会に終わることなく、受
け入れ側と音楽家がパートナーシッ
プを組み、最大限の効果をもたらすこ
とができるように、対等な立場で音楽
教育について話し合い、協力しあえる
関係を築くことも大切です。

神戸女学院では、津上先生を中心に
アウトリーチ活動に積極的に取り組
まれ、いち早くカリキュラム化されま
した。アウトリーチ・センターも開設
され、サポート体制も整い、今後益々
充実した活動が期待されます。六月に
私が理事長を務める『ミュージック・
シェアリング』の活動で一緒にさせて
いただいたり、その後の懇親会で議論
を交わした学生の皆さんは、アウトリ

ーチ活動に真摯に取り組まれており、
大変心強く感じました。

音楽家は音楽活動だけ行うという
のではなく、コミュニケーションの中に生
きる一人の人間として、自己の様々な
可能性を幅広く追求し、コミュニテイ
ーの理想の姿を常に意識して、社会に
貢献していかうとする姿勢が、現代の
音楽家に求められている姿であると思
います。

どうぞ神戸女学院の皆さんも、自分
の可能性を信じ、専門以外のことにも
関心を持ち、人間の幅を広げて、謙虚
に、他人とのコミュニケーションを大
切にし、積極的にコミュニケーションに貢
献していただきたいと思いま
す。



五嶋みどり 十一歳でニューヨーク・フィルと
の共演デビューして以来、世界のトップ・ヴ
ァイオリニストとして活躍している。南カリフ
ォルニア大学で教鞭をとるほか、一九九二年
以降、日米のMidor & Friends Jazz Offi
ー、ミュージック・シェアリング「Midor Center for
Community Engagement」等の組織を設立。社
会、とりわけ子どもたちに音楽を浸透させる
ための活動を精力的に展開している。

五嶋みどり公式ホームページ
<http://www.gotomidor.com>

子どものための

コンサート・シリーズ

第十五回 オルガン・コンサート

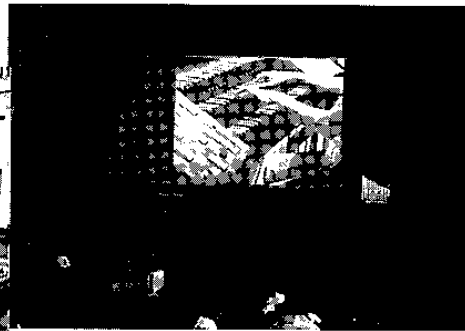
ト

十月二十一日(土)、本学講堂にて「子どものためのオルガン・コンサート」(子どものためのコンサート・シリーズ第十五回)を開催しました(十四時開演、来場一九七名)。

卒業生で神戸女学院オルガニストの片桐聖子、早野紗矢香、そして学部四回生でアウトリーチ履修生の川勝さちこが出演、一般になじみの薄いパイプオルガンについて分かりやすく説明し、子どもたちに親しみを持ってもらうことをねらいにプログラムを展開しました。

マサイアス《ファンファーレ》で華やかに始まり、バッハ《トッカータとフーガ ニ短調》、ソレル《二台のオルガンのための協奏曲集より第三番》など本格的なオルガン作品から、オリンピックで有名になったプッチーニのオペラ・アリア《誰も寝てはな

らぬ》、本居長世(早野紗矢香・編曲)《七つの子》など、小さな子どもたちも知っている作品まで幅広く取り上げました。



演奏の様子をスクリーンで!



聴くだけでなく、じっくり観察

講堂の二階にある大オルガンで演奏している姿を舞台上のスクリーンに映したところ、普段見る事のできな

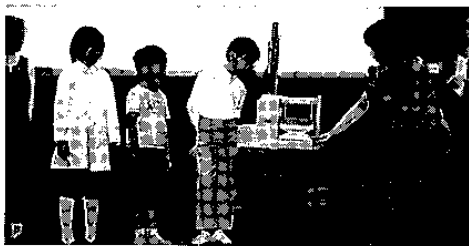
いオルガン奏者の奮闘ぶりを目の当たりにして、お客さまからも驚きの声があがりました。

今回のコンサートでは珍しいオルガン二台を使つてのデュオも試み、オルガンの多様な可能性を味わっていただきました。

曲の合間にはオルガンの音が出る仕組みを説明し、子どもたちには実際にパイプを一本ずつ手に持って、笛のように鳴らしてもらいました。短く細いパイプからは高い音が、そして大きなパイプからは低くしつかりとした音が聞こえ、オルガンの構造をより身近に感じていただけた様子でした。

また、数人の子どもたちに舞台へ上がってもらい、オルガンの小型模型を使つて、パイプに空気を送るふいごと鍵盤の役割をじっくりと調べ

てもらいました。昔のオルガンは今のよう



かったため、このふいごを動かすためにアルバイトを雇っていたというこぼれ話には、大人の方も興味を持ってくださったようです。



コンサート終了後には恒例の体験コーナーを設け、子どもたちは長い行列を作つて順番にオルガンの椅子に上り、実際に自分の手で音を出して楽

しんでいました。オルガンの椅子は少し高いので、楽器にたどり着くのも一苦労のようでした。

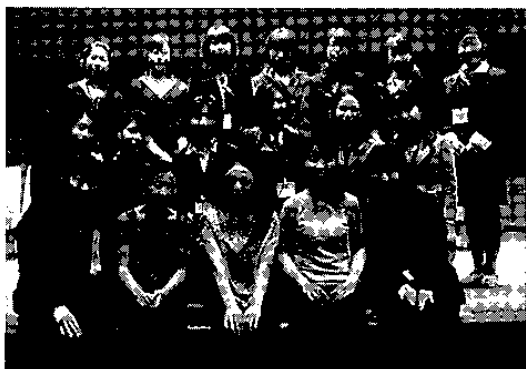


同時に大人の参加者も交えて、講堂二階のオルガン探検ツアーも催しました。楽器そのものが大きな建物のようになっているオルガンの内側は、沢山のパイプや機械で複雑に構成され、精密機械のようでした。スタッフの説明と共に、しきりにシャッターを切る音も聞こえました。

お客さまからは、「今回はオルガン

だけということでしたが、想像以上に
よかったです」、「足まで使って演奏す
るなんてすごい」、「迫力があり、楽し
かった。パイプの体験も楽しかった」
といったお声を頂きました。

縁の下の力持ちであるコンサート
スタッフも回を重ねるごとに段取り
が良くなり、経験のある上級生が今回
新しく加わったスタッフに今までの
経験を伝えるなど、次から次へと受け
継いでいく体制が整ってきたように
感じられました。
(絹田朋子・記)



出演者、スタッフ一同

アウトリーチ実習報告

神戸女学院中高部

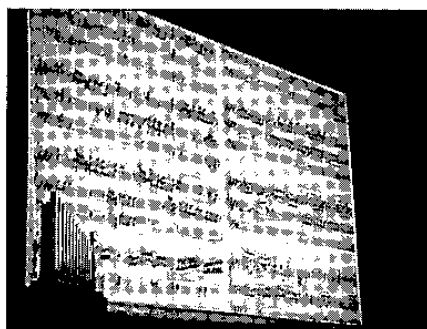
十月十日(火)、本学講堂にて神戸
女学院中高部(音楽教諭・喜多牧子先
生)の中学一年生四クラス(二クラス
ずつにわけて)を対象にオルガン・ア
ウトリーチを行いました(オルガン・
川勝さちこ/声楽・周防彩子)。



パイプオルガン初体験!

パイプオルガンは神戸女学院には
無くてはならない楽器で毎日の礼拝
でも演奏されていますが、その構造や
歴史について知る機会はなかなかあ
りません。そこで、「オルガン入門」
と題して演奏やお話の他に〇×クイ

ズなども取り入れ、オルガン音楽の魅
力をたっぷり味わってもらえるよう
工夫しました。



オルガンの楽譜は3段です

まずバッハの《トリオ・ソナタ ニ

短調》より第一楽章を取り上げました。

普通は三人で演奏するトリオを、オル
ガンでは右手、左手、両足を使って、
一人でその三役をこなします。その演
奏の様子をスクリーンで映し出して
見てもらいました。次にオルガンの模
型を使って、その構造やオルガンの三

要素(パイプ・ふいご・鍵盤)を説明
し、さらにパイプの種類や、オルガン
専用の靴があるなどを話しました。

〇×クイズでは、「パイプオルガン
の原型は今から五百年前にできた」

「オルガンは鍵盤を押さえておけば、
どんなに長時間でも鳴り続ける」など
の質問に、中学生の皆さんは頭を悩ま
せながら答えてくれました。

生徒さんからは「足の動きが速くて
びっくりしました」、「いつも礼拝で聴
いているオルガンがこんなにも複雑
な仕組みになっているとは知りませ
んでした」、「オルガンについての知識
が増えたので明日からの礼拝が充実
したものになると思います」などの感
想をいただきました。

中学生に教えることで、私自身も改
めてオルガンについての知識が整理
され、さらに理解が深まりました。ま
た、歌と説明で協力してくれた友人と
一緒に一つのプログラムを作り上げ
ることで、喜びや達成感が倍増するよ
うに思いました。

(川勝さちこ・記)



神戸医療センター



八月三日（木）、神戸医療センター（神戸市須磨区西落合三丁目一番一）の外來待合ホールにて、サマーコンサートを行いました（声楽・谷田奈央／フルート・今井さつき／ピアノ・西村遙子、谷優似子）。

「名曲でつづる夏のひととき」と題して、プッチーニのオペラ・アリアの名曲《私のお父さん》《誰も寝てはならぬ》や、エルガー《愛の挨拶》、ブラームス《ハンガリー舞曲》などのクラシックの名曲、《浜辺の歌》《夏の思い出》などの日本歌曲まで幅広く演奏しました。

広いロビーにぞくぞくと患者さんが集まってくださり、プログラムが進むにつれて会場はとても温かな雰囲気になっていきました。

最後に、「今日演奏した中でもう一度聴いてみたいと思われる曲はありますか？」と聞いたところ、プログラムにはなかった曲をリクエストされました。なんとか演奏したものの、こ



のような場で臨機応変に対応するためにはもっとレパートリーを広げておかなければと思います。

終演後には多くの方から声をかけていただき、また頑張ろうという気持ちになりました。

神戸医療センターのスタッフの皆さんからもよくしていただき、落ち着いて本番を迎えることができました。ありがとうございました。

（西村遙子・記）

神戸市立中央市民病院



会場はほぼ満席で、寝たきりの患者さんはベッドのまま聴きにきてくださいました。日本の歌など一緒に歌いたいという方が多く（中には「自分で楽譜を用意して持ってきてくださった方も！」、「どうぞ一緒に」と言う、とても楽しそうに歌ってくださいしたのは私たち演奏者にとっても嬉しい出来事でした。

「とても感動しました。勇気をもらいました。私もガンになんて負けないで頑張ります」と泣きながら手を取ってお話くださった方もあって、音楽が人に与える力の大きさを再認識しました。それは自分の音楽の力が生かされていると感じた瞬間でもありました。

神戸市立中央市民病院の皆様、ありがとうございました。（谷田奈央・記）



出演者一同

九月七日（水）、神戸市立中央市民病院（神戸市中央区港島中町四丁目六番地）にて院内コンサートを行いました（声楽・谷田奈央／フルート・今井さつき／ピアノ・西村遙子、谷優似子）。年齢層の高い入院患者さんが多い病院でのコンサートなので、《小さい秋みつけた》《この道》《赤とんぼ》などの日本歌曲や《見上げてごらん夜の星を》など親しみやすい曲を中心に楽しんでいたできるようプログラムを考えました。

幼稚園アウトリーチ



十月、西宮市の三つの幼稚園でそれぞれ三十分のコンサートを行いました（声楽・海老原ゆかり、高林保子／フルート・片岡朗子／ピアノ・谷優似子）。

演奏曲は、音楽で秋という季節を感じてもらえるよう、『まつかな秋』『赤とんぼ』『もみじ』などの日本の歌、そして『小さな世界』や『星に願いを』といったディズニーの作品、アンコールでは全員で『アンパンマン』を歌いました。

人前で演奏することには慣れていても、お話は苦手という履修生たちも三回の実習で回を重ねるごとに上達し、落ち着いて園児の反応を見ながら話すことができるようになるなど、実りの多い幼稚園実習となりました。

西宮市立今津幼稚園

十月十二日（木）、西宮市立今津幼稚園六角堂にて四、五歳児の園児五十八名を対象にコンサートを行いました。

今津幼稚園は今津小学校の敷地内にある歴史の古い幼稚園で、会場となった六角堂は明治時代から受け継がれてきた由緒ある建物です。

知っている曲が多かったようで、子どもたちは一緒に口ずさんだり、体を動かしたりと楽しそうに聴いてくれました。



西宮市立夙川幼稚園



十月二十日（金）、西宮市立夙川幼稚園にて三歳児から五歳児の園児を含む約九十名を対象にミニコンサートを行いました。

二回目の幼稚園実習で余裕が出てきたこともあり、子どもたちの反応を確かめながらコンサートを進めることができました。

一緒に歌える曲をもっとたくさん用意しておけばよかったと思いました。

西宮市立上ヶ原幼稚園

十月二十三日（月）、西宮市立上ヶ原幼稚園にて園児六十五名を対象にコンサートを行いました。

自分たちのプログラムにも自信が持てるようになってきたので、子どもたちからの質問にも落ち着いて笑顔で答えることができました。コンサート終了後には、いろいろな教室から楽しそうな歌声が聞こえてきました。

このように三回のコンサートを通



して、プログラムを深める事ができました。各幼稚園の皆様、ありがとうございました。（高林保子・記）

アウトリーチ海外通信

英国ライブ・ミュージック・ナウ!

での活動

エディンバラでの七つのコンサート

絹田 朋子



一九七七年にヴァイオリニスト、ユンディ・メニューインによって設立されたライブ・ミュージック・ナウ! (以下「NMZ」) は、若い演奏家達に様々なコンサートを提供し、将来立派な職業演奏家になるための助力をしているイギリス最大のアウトリーチ組織です。「NMZ」の特色の一つに「ツアー」があります。これは、イギリス全土を巡りながらヨーロッパ、または世界中を演奏旅行するための予行演習をすることが目的です。

私はNMZの要請を受け、今年の八月二十四日から二十七日の四日間、スコットランドのエディンバラ周辺の会場にて七つのコンサートを催しました。

今回のツアーは、毎年エディンバラで開催される世界最大級の音楽祭、エディンバラ音楽祭での演奏を中心に、その他五つの会場を巡るものでした。

まず、ロンドンから二十四日朝一番の飛行機でエディンバラの北外れにある聖コランバス・ホスピスに直行し、尺八で日本の曲、またフルートでイギリスの曲を中心に、ホスピスの入居者の方々と共に演奏したり歌ったりできるコンサートをしました。その後バスを乗り継ぎ、東外れにある、プロスペクト・バンク・スクールへ直行しました。ここは発達障害のある子どもが多く通う小学校で、前日突然その学校の先生から「子どもたちは、ミッシェン・インポッシブルが好きですので、どうぞよろしく」と要請があったため、コンサート前に生徒の中から数名を集め「ミッシェン」と称して他の生徒には内緒で手作り楽器を作り、コンサート最後の生徒たちを中心に《聖者の行進》を合奏しました。



エディンバラの花火

二日目の二十五日も障害を持つ子どもが多いローワンフィールド・スクールという小学校で、前日と類似のプログラムを行いました。こちらは十数名と少人数な上、高学年のクラスだったので、日本の歴史や楽器の歴史、そして私から生徒達にイギリスのことを尋ねて両国の文化を比較しながら演奏しました。手作り楽器での演奏が予想以上にうまくいき、他の生徒にも聞かせてあげたいということになりました。そこで、全校集会が開かれ、手作り楽器を手に、皆で合奏をしました。その後、バス、電車、タクシーを乗り継ぎ、エディンバラ市街の遥か西にあるサイトヒル・リソースセンターというデイサービス施設の施設に向かいました。こちらでは耳の不自由な参加者もあり、マイクを使って演奏しました。尺八の音色は物珍しかったようですが、聴衆の皆さんは演奏会よりも、その後のお茶会を楽しみにされています。私も招待を受けて楽しい時間を

過ごしました。
三日目が今回のツアーのメインとなるエディンバラ音楽祭出演で、ミュージアム・オブ・スコットランドの大きなエントランス・ホールで演奏しました。この博物館には世界各地で集められた剥製などが飾られ、日本の文化に興味を持つ聴衆がたくさん参加してくれました。普段のコンサートではモダンフルートも交えながら演奏するのですが、このステージは「日本」を紹介することが目的でしたので、尺八、篠笛、土笛など日本の笛のみで構成し、日本の四季にまつわる曲を演奏しました。

最終日の二十七日にはエディンバラ・インターナショナル・ブックフェスティバルで二回公演をしました。本番直前に、予定されていた三十分プログラムではなく四十五分プログラムに変更するように要求された上に、会場はパブにある特設ステージのような所で、用意していた「お話付き」のコンサートは不可能になってしまいました。急に演奏曲目が足りなくなつたため、無理矢理《エディンバラの景色》と題して尺八で即興をしたりしながら、与えられた時間を乗り切りしました。



演奏先からの感想

アウトリーチ担当講師紹介

●音楽によるアウトリーチ(講義)

月曜日 三限

林 睦 先生

東京藝術大学

楽理科、同大

学院修士課程

修了。ニュー

ヨーク大学大



学院留学を経て、大阪大学大学院博士課程修了。アウトリーチの調査・研究、コーディネート等を行なっている。

現在、滋賀大学教育学部助教授(音楽教育)。

今回のツアーで学んだことは、パニックにならないことの大切さです。七回の連続したコンサートに向けて事前の打ち合わせやプログラム作りなど、できるかぎり入念に行いましたが、コンサート当日はまったく予想もしていないハプニングに数多く見舞われることになりました。様々な出来事をなんとか乗り切ることが出来たのは、今まで日本やイギリスで多くのコンサートをしてきた経験が役に立ったのではないかと思います。一回一回のコンサートでは、自分がどのように成長できているのか判りにくいですが、知らず知らずのうちに曲のレパートリーが広がり、聴衆とのやりとりの方法が蓄積され、いざという時にも役に立ったようです。これから色々な経験を積み重ね、さらに良い演奏会作りをしていきたいと感じました。

アウトリーチの基礎を学びます。ただ講義を聞くだけの授業ではなく、実際に自分でアウトリーチのコンサートやワークショップを企画・立案し、実施できるようになることを目指しています。具体的には、アウトリーチとはどんなものなのか、アメリカやイギリス、日本の先進事例を参照しながら学んだ後、グループでアウトリーチコンサートやワークショップを企画し、発表します。より充実した企画を立案、実施できるよう、ゲストの先生

をお迎えしてクリエイティブ・ミュージックのワークショップを体験したり、子どもを対象としたプログラム制作についてアドバイスを受けたります。アウトリーチ(実習)に向けての基礎づくりを目標としています。



海外研修のお知らせ

津上 智実

本年九月一日より一年間、神戸女学院大学からの派遣により、英国ロンドン大学ヴィジティン・フェローおよびケンブリッジ大学ヴィジティン・スカラーとして海外研修に出ています。この間、アウトリーチ・センター・ディレクターは音楽学部長の澤内崇先生に、「音楽によるアウトリーチ(講義)」は非常勤講師の林睦美先生に、「音楽によるアウトリーチ(実習)」は同じく絹田朋子先生にお願いしています。留守中、何かと御不便をおかけすること存じますが、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

アウトリーチ・センターより

文部科学省の平成十七年度「特色ある大学教育プログラム(特色3)」に、「音楽によるアウトリーチ」が採択されたのを機に、二〇〇五年十月一日、アウトリーチ・センターが設立されて、それから一年がたちました。

主な仕事は学生のアウトリーチ活動のサポートで、依頼を受けると担当スタッフを割り当て、依頼先との交渉や事務連絡、学生との打ち合わせや配布物の準備を行います。年に三回実施している「子どものためのコンサート・シリーズ」も同様にセンター全体で準備にあたります。

また、スタッフ一人ひとりに会計、ホームページ管理、各プロジェクト、アウトリーチ通信作成などの分担を決め、それぞれが責任者となって各業務を行っています。

今年八月からは、退職した革島玲奈に代わりアウトリーチ四期生の南香代子(かろ)が加わり、六名のスタッフが交代で勤務しています。「地域密着型の音楽空間作り」



を目標に、これから力を合わせて頑張っていますので、どうぞよろしく願いいたします。

♪ 今後の予定 ♪

◎ アウトリーチ

11月29日(水) 神戸市立中央市民病院
12月18日(月) 雲雀丘学園小学校

◎ 養護学校プロジェクト

協力：兵庫県立こやの里養護学校

11月10日(金) 第1回目
11月17日(金) 第2回目
12月1日(金) 第3回目

◎ ひよこプロジェクト

協力：西宮市立子育て総合センター
附属あおぞら幼稚園

11月15日(水) 第1回目

◎ 子どものためのコンサート・シリーズ

12月16日(土)
第16回「子どものためのクリスマス・コンサート」

◎ 講演会

12月8日(金)
仲道郁代
講演会とディスカッション



♪ お知らせ ♪

～第16回 子どものためのクリスマス・コンサート(12月16日)のお申し込み方法～
往復ハガキに 1) 参加希望時間、2) お子さまの学年(年齢)と人数、3) 大人の人数、4) 住所、5) 氏名、6) 電話番号、返信面の宛先を明記の上、下記宛先まで11月29日(水) 必着でお申し込みください。往復ハガキのみの申込受付になります。申込多数の場合は抽選(第1部・第2部、各500名様まで)となります。コンサートの詳細はHPをご覧ください！

～仲道郁代さん講演会(12月8日)～

12月8日：仲道郁代さん講演会は、11月中旬以降E-mailまたはFAXで申込受付を開始、先着順(100名様まで！)で一般の方もご来聴いただけます。詳細はHPをご覧ください！

♪ 音楽をお届けします ♪

「音楽によるアウトリーチ」

「アウトリーチ」とは、「一歩踏み出すこと」「手をさしのべること」。
大学やホールといった従来の枠にとらわれずに、社会のさまざまな場にすてきな音楽のプログラムをお届けします。

♪ 小中学校へ：総合的学習支援プログラムとして、
子どものための楽しい体験学習を！

♪ 病院や美術館へ：催しの趣旨に沿った手作りの音楽
プログラムを、心をこめてお届けします。

お問い合わせは…

神戸女学院大学音楽学部 アウトリーチ・センター

〒662-8505 西宮市岡田山4-1 TEL&FAX: 0798-51-8584

E-mail: outreach@mail.kobe-c.ac.jp http://www.kobe-c.ac.jp/musicdp/outreach/

編集後記

アウトリーチ・センター開設1周年を迎えました！これからもよろしくお願いいたします。(早野)

アウトリーチ・センターができてはや一年！これからの活動にもどうぞご期待ください！(寺澤)

実習を重ねる度に成長する学生たち。今後も更なる飛躍を願い、心からエールをおくります。(松川)

アウトリーチ通信の作成を担当しています。写真を選びながらのレイアウトはなかなか楽しいものです♪(中村)

働き始めて早3ヶ月。右往左往しているうちにクリスマスが近くなりました…。(南)

後期が始まってまだ2ヶ月？と思うほど沢山の出来事がありました。まさに実りの秋！？(絹田)

メールとインターネットで地球の裏側もぐっと近くなりました。実習の現場を見ることができないのが残念！(津上)